

タイトル	教科情報を中心としたクロスカリキュラムの実践について			
発表者	千葉県立茂原高等学校 永野 直			
<p>【主な発表内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力」とは、生徒に問題解決能力をつけさせる。 ・確かな学力とは、主体的な学力と知識の双方のバランスが必要。学習意欲の低下が問題。 ・グラフ作成などを教えたのに、他教科のグラフ作成でP Cを利用してくれない。 なぜかと聞いたら、方眼紙で書くように言われた。 ・あまり意味のないデータで演習させていたのでは…。 ・教科間の連携が日々つながりを作る教科「情報」 ・「情報」はI T活用が目的でもなく、他教科の下支えをする教科でもない。 ・千葉県のほとんどの学校で情報の授業をT Tで行っている。 ・連携（協力）できる知識・機会は多くあるのではないか。 ・例：立体C Gの学習後、地理の授業で立体C Gを作成して、等高線を引く 情報の信憑性を習った後、焼き畑農業について調べさせる。本当に焼き畑農業は悪いのか？ ・例：物理 I で、音や光などについて学習したあと、その内容と絡めて「情報」の授業に取り入れる。 化学でグラフを作成させた。 ・例：Web ページの色彩について、美術で教えてもらった（配色のコツなど）。 内容については同じだが、デザインの評価については、美術の授業を受けた生徒と受けなかった生徒の差が歴然。 ・このことにより、アクセシビリティについての学習もできた。 ・情報と他教科の連携によって学力の向上を目指す。相乗効果を意識的に考える。 ・それぞれの教師が専門知識を生かす。 ・クロスカリキュラムにより、特別なプロジェクトを立てなくても共有できるものがある。 <p>Q：他教科との連携の際、年間プランなどあらかじめ練るのか？</p> <p>A：本来ならば年間プランなどを作るのが理想だが、初年度はあまり計画できず、突発的になった。 ある程度シラバスなどを見て、できそうなところを無理のない程度に変えたほうがいい。</p> <p>Q：生徒の方から要望が出るのか？</p> <p>A：本来それが理想。数年前までそれがほとんどなかった。レポート作成にP Cをつくる、学校行事などではあるが、授業内容に関してまでは、やはりない。</p>				
WEB への資料公開許諾	許可	不許可	記録者氏名	辻 誠一（東京都）